

JASE

現代性教育 研究ジャーナル

MONTHLY JOURNAL of SEX EDUCATION TODAY

2025 年

No. 169

2025年4月15日(毎月15日)発行

日本性教育協会

THE JAPANESE
ASSOCIATION
FOR SEX EDUCATION

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-3富山房ビル5階 Tel.03-5801-6788 Mail info_jase@faje.or.jp URL https://www.jase.faje.or.jp 発行人 石川哲也 編集人 小澤洋美
© JASE. 2025 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

予期せぬ妊娠相談から見える若者の性 1
SEE性教育アカデミー2024・報告 7
"めぐみ"を生きる⑬ 9
わたしたちの性教育アクション⑮ 10

多様な性のゆくえ⑯ 11
今月のブックガイド 12
JASEインフォメーション 13

予期せぬ妊娠相談から見える若者の性 行き場のない妊産婦支援を通して

公益社団法人小さないのちのドア代表理事 永原 郁子

はじめに

公益社団法人小さないのちのドアでは一日に30～70件の予期せぬ妊娠相談を受ける。10代などの若年からの相談が多く、24時間体制で胎児や新生児、また命を宿した女性に寄り添っている。

日々寄せられる予期せぬ妊娠相談を受けるたびに、いのちと性の大切さを伝える性教育の必要性を痛感する。筆者は2000年に性教育グループ「いのち語り隊」を立ち上げ、翌年より阪神間を中心に、年間約150か所で講演活動をしているが、この働きを2022年より小さないのちのドアの傘下に移して、予期せぬ妊娠の予防としての性教育にも力を入れている。また2024年度には、兵庫県からZ世代のプレコンセプションケアを受託し、県下の高校、専門学校、大学を対象に、将来を見据えた情報発信としての性教育を行っている。

小さないのちのドアの3つの働き



これらの働きを通して見てきた若者の性の実態と今必要とされる性教育について述べる。

小さないのちのドアの理念と沿革、活動について

小さないのちのドアでは「最も小さないのちである胎児と新生児、また弱い立場にある女性が最も大切にされる真に豊かな社会を目指す」ことを理念としている。

日本は中絶大国と言われるが、おびただしい数の胎児が生まれることなく人工妊娠中絶によってそのいのち

ちを絶たれている。そればかりか中絶によって心身に傷を負う女性も少なくない。また新生児の殺害遺棄事件も後を絶たない。このような問題に対応するべく、小さないのちのドアでは予期せぬ妊娠相談を2018年9月にスタートさせた。当初、日本において24時間体制の相談窓口は少なく、全国からの相談に応じてきた。

また2020年12月に相談の受け皿であるマタニティー専用のホーム「Musubi」を建築し、住む所のない妊産婦のための生活自立支援を始めた。

これらの活動は国に制度がなかったため、すべて民間の力だけで運営してきたが、2021年度に兵庫県と神戸市より妊娠SOS事業として、2022年度に特定妊婦等居場所確保・自立支援事業として受託した。また2024年度には児童福祉法改正に伴って法定事業「妊産婦等生活援助事業」として受託する運びとなった。

小さないのちのドアの仕組み

小さないのちのドアには相談支援部門、母子支援部門、生活支援部門、事務局の4つの部門がある。相談支援と母子支援のスタッフは国家資格を有する者で構成している。また多職種での支援を行っている。助産師、保健師、看護師（産科・小児科経験者）、社会福祉士、臨床心理士、保育士、調理師、経理事務、Webデザイナー。またアドバイザーとして顧問弁護士、顧問医師（産婦人科、精神科、心療内科）のサポートがある。

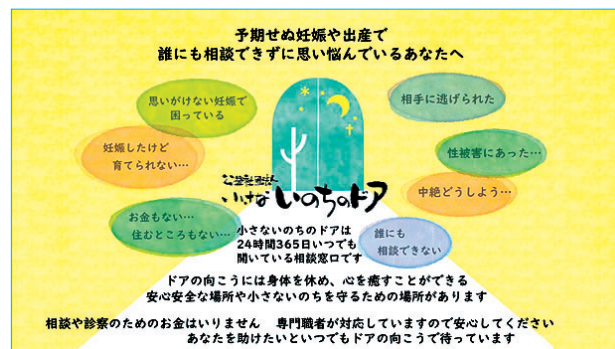
勤務体制は日勤が5～7名、夜勤が2名であるが、必ず医療職と他の職種とのペアで働く。また陣痛が起こってきたときや緊急時の対応を考えて、2名の医療職の待機スタッフがいる。小さないのちのドアを開けば、これらの多職種の専門家が相談者の傷ついた心に寄り添い、必要に応えようと待っている。

予期せぬ妊娠相談の実際

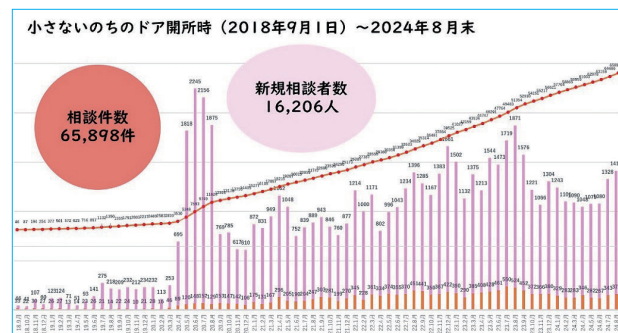
(1) 相談件数と内訳等

小さないのちのドアを開所してから2024年8月までの6年間の相談件数は65,898件、相談者数は16,206人であった（図表1）。

2020年5月から8月まで相談件数が急増した。こ



図表1 相談件数の推移



れはコロナ感染対策のため第1回目の緊急事態宣言が発令された時期と重なる。多くは10代の子どもたちからの「妊娠したかもしれない」という妊娠不安の相談であった。その後9月ごろから相談件数は落ち着いたが、その後も徐々に増加傾向が続いている。

相談者の内訳としては本人からが84.8%と大多数であるが、パートナーなど男性からの相談も9.9%と一定数受けている。

相談者の年代は10代と20代で53.6%と半数以上となるが、不明の32.2%も若年層からの相談が多くを占めると思われる。

相談の時間帯は平日の日中は22.8%。その他は行政や病院との連携が困難になる休日の日中（10.6%）や夜間（66.6%）であった。

相談のツールはLineが77.4%、電話が16.3%でこの2つでの相談が多数を占める。来所、面談は合わせて2.2%と少数であるが、その中には緊急性の高い相談の場合があり、24時間来所が可能な「ドア」を設置した意味は大きい。

婚姻関係としては既婚が10.9%、未婚が64.6%であった。未婚者からの相談が大半であるが、既婚者からの相談の中にはDVや離婚、不倫などの問題が含まれるケースも見られた。

相談の内容は妊娠が確定していない時期の緊急避妊や妊娠疑いが最も多く56.0%で半数以上である。また

妊娠が確定した後の思いがけない妊娠相談が12.0%。人工妊娠中絶の相談は4.3%と割合としては少ないが、中絶する前の相談、中絶した後の相談、どちらにしても内容は深刻である。

(2) 継続支援の必要性・緊急性のある相談について

開始した2018年9月1日から2024年8月末の6年間で妊娠中期以降の未受診妊婦からの相談が256人(3.6人/月)。未受診で陣痛が起こっている状態での相談が25人(4.2人/年)。未受診かつ生まれた直後の相談が11人(1.8人/年)であった。未受診で陣痛が起こっている、または生まれた直後の相談は合わせて2か月に1度の頻度で受けているが、今のところすべての母子のいのちを守り、病院と行政に繋いできた。

こども家庭庁の専門委員会が発表した、第20次(令和4年)の検証結果によると、19歳以下の虐待死は56人(心中をのぞく)で、年齢別でみると0歳児が最も多く、25人(44.6%)であった。なかでも0か月0日(誕生当日)の虐待死が1日で9名と最も多く、0か月(生後1か月以内)では15名となっている。平成15年～令和4年の0日の虐待死の加害者は92.7%が実母または実母と実父で、年齢は10～20歳代。医療機関での出産は0人であったが、小さいのちのドアが受ける相談のうち、未受診でかつ陣痛が起こっているケースや出産直後のケースは、このような事件になりかねない状況であったと言える。

(3) 人工妊娠中絶に関する相談

厚生労働省が公表した衛生行政報告例によると、令和5年度の中絶の届け出件数は126,734件であった。数年来、減少傾向であったが、増加に転じ、前年度より4009件(3.3%)の増加であった。ただし、10、20代の届け出件数は年々増加の一途をたどっており、令和5年度は前年より4,213件増の70,479件であった。1日に195.8件の中絶が届けられている計算になる。

小さいのちのドアへの中絶に関する相談は4.3%と数は少ないが、内容は深刻である。予期せぬ妊娠で、中絶を考えているという相談に対しては話のタイミングを見計らいながら中絶の心身のリスクを伝える。また中絶以外の産み育てる選択、出産後児を託す選択などを提示し、それぞれのシミュレーションを描くことを助ける。いずれにしても本人の決定を支える。

中絶後の相談もある。「妊婦を見ると憎い」「赤ちゃんのことを思うと眠れない」「友だちから人殺しと言われた」「こんな私は生きている資格がない」など重い言葉が続く。社会生活ができなくなったというケースや精神科に通い始めたというケース、また自殺が心配される相談もある。

行き場のない妊産婦支援

予期せぬ妊娠相談の中には、住むところがない、頼る人がいない妊産婦からの相談がある。このような相談の受け皿としてマタニティー専用のホーム「Musubi」を建築した。2020年12月から入居を始めたが、2023年8月までに61名が入居した。衣食住を無償で提供している。成育歴において愛着、信頼などの基本的人格形成が脆弱なため、予期せぬ妊娠に伴う課題は複雑で重層的である。そのため温かな環境と心のケアを欠くことはできない。いつでも話を聞く体制を整え、寄り添い・受容する姿勢が大切で、決して否定しない。ジャッジしない。不必要にコメントしない向き合い方を大切にしている。

過ごしやすい場の提供として、Musubiカフェの実施や、食べたい料理や好きな料理などを献立に取り入れたり、希望により一緒に料理やお菓子作りをする。また自立に向けた支援として基本的生活習慣を身につ



マタニティー専用のホーム「Musubi」

けるための手伝いや家事育児等の助言や手本を示すなどを心がけている。具体的な支援として就学、就労支援や住居設定の手助けをしている。

予期せぬ妊娠を予防する働き——性教育

予期せぬ妊娠相談のなかで中高生や大学生、専門学校生からの相談を受けるたびに、前もって話をする機会があれば防げたかもしれないという思いに駆られる。

そのための活動がアウトリーチと性教育であるが、性教育活動について沿革や基本的な考え方などを述べる。

(1) 性教育グループ「いのち語り隊」の働き

筆者は2000年に性教育グループ「いのち語り隊」を立ち上げ、阪神間を中心に就学前の幼児から大学生、そして教職者や保護者の方々を対象にいのちと性の大切さを年間150か所で伝えている。

活動のきっかけは、活動開始の3年前の1997年、神戸の須磨区で発生した連続殺傷事件である。中学3年生の男子生徒が相次いで小学生5人を殺傷し2人が死亡、2人が重軽傷を負うという日本を震撼させた事件である。その3年後の2000年には佐賀のバスジャック、岡山の金属バットで母親を殺害するという少年犯罪がたて続けに起こった。

筆者は地域のなかで母子に密着して助産師としての活動を行うことを目指して、1993年に神戸でマナ助産院を開業した。生まれる力、産む力を最大に引き出すお産を手掛けて、2023年に分娩を中止するまでに2,243人の赤ちゃんを取り上げてきた。

赤ちゃんが狭い産道からこの世に誕生したときの初々しいエネルギーに満ちた輝きは何にも勝る。あの子もこの子も等しく、優劣なく輝いて生まれてくるのである。それぞれにこの世で果たすべき役割を与えられて生まれてくるかけがえのない尊いいのちである。

ところがわずか十数年で生き方が大きく違ってくる。自己実現に向かって自立の準備をしている子もいれば、非行に手を染める子もいるのである。相次ぐ少年犯罪の報に触れ、助産師として子どもたちに伝えなければならぬメッセージがあると突き動かされて性教育活動を始めた。

そのメッセージとは、「あなたはお母さんが一生懸命お産みになったいのち、またあなた自身が一生懸命

生まれようとして誕生したいのち。歴史を振り返っても未来にも、世界を見てもあなたと同じ人は一人もない固有のかけがえのないいのち。あなたしか経験のできない人生を背負って誕生したいのち。この世に必要とされて生まれてきたいのちである」ということである。

いのちの大切さと同時に助産師は性の大切さも語ることができる。いのちの誕生は性の延長線上にあるからである。この2つはまさしく、今、若者が抱えている問題と一致する。

(2) 「いのち語り隊」の基本的な考え方

性教育を大きく3つの要素にまとめる。まず初潮や精通、射精などの生理教育。次に性交や受精、妊娠、出産、中絶などの生殖教育。そしてプライベートゾーンや月経、マスターベーション、性行為、性感染症などの処置教育である。

一方、いのちの学習は人生観や生と死について、円満な人間関係、愛すること、愛されること、自己実現に向けての生き方など大切ないのちをいかに生きるかという学びである。

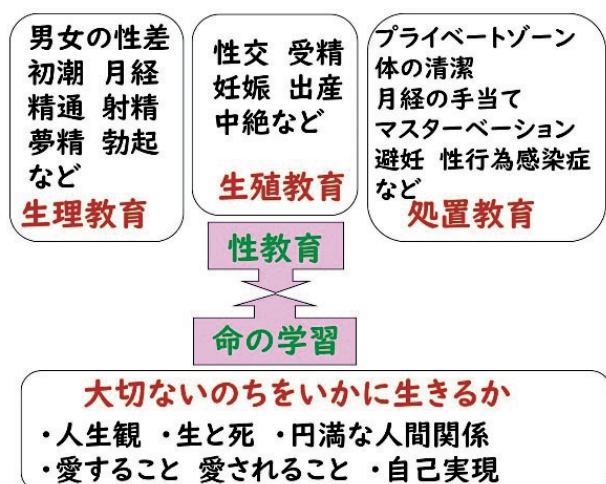
この2つの学習をリンクさせて話すことによって、どちらの学習効果も期待できるのが「いのち語り隊」の性教育の特徴である。例えば、初潮や精通現象などの二次性徴を、解剖生理の知識だけではなく、大人になる準備が始まったと意識づけること。また急激に変化する身体に対して、心や社会性などの成長は緩やかであること。これらはWHOが定義した健康の要素であるが、これらがバランスよく成長するためのアドバイスを加えることで、二次性徴と生きる学習をリンクさせて話すのである。

また、「二次性徴を迎えたら自分の持っているいのちの元が赤ちゃんになることができるわけだが、赤ちゃんになる前にすることがある」と話すこともある。

それは、収入があること、赤ちゃんを迎える環境(家、部屋など)を整えること、心の準備も大切、なによりもベストパートナーと出会うという大切なことがあると話す。

小さいいのちのドアには妊娠反応陽性だったという相談が日常的にやってくるが、筆者は相談者に2つの問いかけをする、「あなたは彼と一生を共にしようと考えているか」ということと、「お腹に宿った小さな

図表2 「いのち語り隊」の基本的な考え方



いのちに対してあなたはどうか向き合うか」ということである。この2つは別に考えることが大事である。先の問いに対しては一生を共にしようとするパートナーとの妊娠ではないことのほうが多いのである。

ベストパートナーと出会うことは人生を幸せに構築するために重要なことである。そこでベストパートナーとはどんな人かということや、愛について考えるという学びに導く。これは人間関係の築き方にも通じる学びでもある。

この内容は就学前の幼児の劇仕立ての性教育のなかにも含まれる。パペットの5歳児の太郎君と花子ちゃんが助産師に聞くのである。「ぼくのいのちのものはいつ赤ちゃんになるんですか。助産師さん教えてください」と。そこで助産師は「まずは大人になって、自分でお仕事したお金でお買い物ができるようになること。そして一緒に仲良く暮らしましょうねと思える人と出会うこと。そのことを周りの人たちに喜んでもらって結婚して、赤ちゃんを育てる準備が整ったら…」と答える。

(3) 「いのち語り隊」の語る項目

①誕生の喜びを伝える

お産の仕組みや、赤ちゃんは小さな存在だが大きな幸せを持って生まれてくるなど、すべての誕生を肯定する言葉で伝える。

②思春期を支える

思春期の話は小学4年生から中学1年生くらいまでで話すことが多い。

③愛すること

いのちと性の大切さをどう伝えるか

① 誕生の喜びを伝える

② 思春期を支える

③ 愛すること

④ セックスについて

⑤ 受精の神秘と驚くべき胎児の成長と能力

⑥ 性感染症と人工妊娠中絶

⑦ 生きるとは

「愛の心とは？」や「この人と恋愛してもいい？」という切り口で、愛ある3つの生き方を話す。1つは自分のことのように相手を大切にしたいと思うこと。2つ目は相手の気持ちをわかりたいと思うこと。3つ目は相手を元気づける心と言葉を持っていることである。

④セックスについて

予期せぬ妊娠相談を受けていると、愛があればセックスするのが当たり前という考えが主流ではないかと思えてくる。確かにセックスは愛のコミュニケーションであるし、喜びでもある。しかし新しいいのちが生まれる可能性があることを忘れてはならない。どんな避妊も100%はない。

小さいいのちに責任が持てるかどうか考えてほしい。高校、大学での講演では、もし「愛しているならセックスして当然」などという言葉を目にしたら「本当にそれでいいのか」という側に立って発信してほしいと呼びかけている。

⑤受精の神秘と驚くべき胎児の成長と能力

中絶の相談のなかで「まだ固まりのうちに」という言葉を聞く。まだ人間の形になっていないときに手術を受けたいということである。もちろん、妊娠がわかったときには人間の形をしており、指紋もある。何よりも受精の瞬間、受精卵が輝くということが2014年ノースウエスタン大学のニュースリリースに発表された。1991年に上智大学で開催された国際生命尊重会議で胎児の人権宣言が採択され、この日が『世界生命の日』として制定され、前文には、「人間はひとりごとりが、受精の瞬間から自然死にいたるまで、生来の尊厳と固有の価値を有する」と書かれている。いのちの神秘とすばらしさを語りたいものである。

⑥性感染症と人工妊娠中絶

セックスは本来すばらしいものであるが、セックスのこの2つの負の部分の語らなければならない。恐怖心を煽るのではなく事実を伝えたい。また性感染症や中絶を経験したものが辛い思いをすることがないように配慮したい。むしろ、この経験をした自分だからこそ！の人生を歩みだしてほしいと願いながら話す。

⑦生きるとは

就学前の子どもや小学生にはいのちを大切にすることの生き方という話をする。1つ目は自分のいいところを誰かの喜びのために使う。2つ目はお友だちを大切にすること。3つめは一日のなかで良かったことを探す。

また生まれたということは必ずこの世を去るときが来る。人は死んだらどうなるかと考えることは、死んだ後の問題ではなく、どう生きるかという問題だと話すこともある。

(4) 子どもたちの講演後の感想

感想文からは、子どもたちは性の知識だけでなく、自らの生き方を考えることができていることが伺える。感想文に書かれた言葉を紹介しよう。

①性教育の講演を聞いた後の中学生の感想文

○未熟なまま大人になるべきではない。自分の人生を計画し、尊重しなければならないと思う。それは自分だけでなく、家族、友人、親戚のためでもある。

(中1)

○軽い気持ちで性行為をすることが“なぜダメなのか”ということについてよくわかりました。すごく共感できました。(中2)

○一番心に残ったのは「命は応援されている」という言葉です。人は皆、希少価値があり、生きることを応援されているものだと思います。心から愛することのできる人と出逢い、経済的にも自立ができるようになったら、私もいつか良い母親になりたいと思いました。(中3)

○自分の命をつなぐということについて、とても考えさせられた時間だった。(中2)

○これからの未来にもこれまでの過去にも決して二つと存在することのない私。今持っている生命の全てを最大限活用していきたいです。(中3)

○僕たちはただ何気なく生きるのではなく、自分以外の誰かに喜びを与えることができる生き方をしなければと思った。(中3)

②性教育の講演を聞いた後の高校生の感想文

○相手の人生に対して責任を持つ決意こそが愛である。

○中絶は生まれてくる子供だけでなく母体にもかなりのダメージを負わせるので、中絶をせざるを得ないという選択をしなくてもいいように…。

○男女の関係は一步間違えれば、人生を大きく変えてしまうものであることを改めて感じました。

○愛という、漠然とした概念の深さを実感しました。“愛”と“依存”の違いや、“愛”と“欲”の違いは、本人たちふたりが、いちばん気づきにくい差でありながら、とても大切なズレでもあると思いました。

○好きと愛するの違いがわかりました。私は自分磨きを極めようと思いました。あとは結婚って難しいなと思いました。

○男性にいろんな条件を求めるのではなく、自分から大きな愛を持って相手を大切にできる人になりたいです。幸せな家族をつくることができればいいなと思いました。

まとめ

性教育を始めて25年となるが、毎回、緊張のなか、新鮮な気持ちでマイクを持つ。性教育は知識を伝えるだけではなく、語る者の心を伝えることだと考えている。助産師は目の前にいる子どもたちがどんなに一生懸命生まれてきたのかを容易に想像することができる。だから幸せになってほしいのである。幸せな人生を築くための言葉をちりばめながら、いのちと性の大切さを語るのである。子どもたちはそれをしっかりと受け止めている。むしろ大人が真剣に語ることを子どもたちは待っている。

大人は子どもたちに真剣に語る責任がある。予期せぬ妊娠相談をしてくる若者や新生児の遺棄事件を起こした女性を非難する前に、大人として子どもたちにどれだけ真剣にいのちのこと、性のことを語っているかを自らに問いたい。

【文献】

- ・こども家庭庁(2024)、こども虐待による死亡事例等の検証結果等について(第20次報告)
- ・厚生労働省(2023)、令和5年度衛生行政報告例の概況

● SEE 性教育アカデミー 2024・報告

みんなで話そう「性的同意」座談会

SEE 共同代表 野坂 祐子・東 優子

はじめに

SEE (Sexuality Education and Empowerment) では、国内外の専門家や実務家との交流と連携を図りつつ、性教育の活性化を目的としたさまざまな活動を展開している。SEE 性教育アカデミーでは、性の教育や支援の基盤である「安全な場」づくりに取り組み、研修にも「対話」を積極的に取り入れている。

2025 年 2 月 8 日 (土)、大阪府豊中市の「とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ」を会場に開催された研修も、〈性的同意〉をキーワードに、ゲスト講師と参加者がサークルになり、お互いの声に耳を傾ける座談会形式で進められた。参加者はスタッフを含め 21 名であった。日本性教育協会が協賛した。

110年ぶりの刑法改正のポイント

まず、スクールロイヤーでもある笠原麻央弁護士 (大阪弁護士会) によるミニ講義がなされた。スクールロイヤーとは、学校で発生する問題について、法律に基づいて助言や指導を行う弁護士であり、笠原氏は「性の問題に対する専門家ではない」と前置きした上で、自己紹介にかえて、児童生徒間における性暴力などに対応してきた経験 (加害と被害の両方を扱わなければならない学校の立場や役割の難しさ) について語った。

本題である「性的同意」をめぐる法解釈については、110 年ぶりの大幅改正となった 2017 年と 2023 年の改正それぞれのポイントがわかりやすく解説された (右図)。図にはないが、性的同意年齢が 13 歳から 16 歳に引き上げられたことも大きな改正点であった。

直近の 2023 年の改正では、改正前の強制性交等罪と準強制性交等罪が統合される形で、「同意しない意思を形成し、表明し若しくは全うすることが困難な状態」における性交等が性犯罪であると明確にされた。「同意」に関して 8 つの要件が設けられたことも大きな変更点だが、法曹関係者からは、従来から暴行・脅



迫の強度自体だけが問題にされていたわけではなく、「被害者の心理状態を考えれば、その程度の暴行・脅迫がありさえすれば、およそ被害者の同意があることは想定できない」かどうかが適切に判断されてきたという指摘もある。とはいえ、必ずしもそうとは言えない裁判結果もあるのが実情である。

笠原氏は、性暴力の根絶に向けたひとつの社会の変化という意味では肯定的に捉えられるが、超えてはいけない一線が強く示されただけだと指摘し、身体や自己決定に関する人権の観点から性的同意について考える必要性を強調された。

「同意モデル」をめぐる欧州の動向

日本における刑法改正と実際の判例解説に続き、東優子 (大阪公立大学) が、レイプを法的に定義する際の「同意」の扱いをめぐる議論の動向を紹介した。アイスランド、スウェーデン、スペイン、クロアチア、ギリシャなど 14 の EU 加盟国では同意モデル = 「YES (同意) は YES と言われたときだけ」(Only

110年ぶりとなる大改正 (2017年)、そして2023年さらに…

	1907 (明治40) 年 制定	2017年 改正	2023年 改正
罪 名	強姦罪	強制性交等罪	不同意性交等罪
手 段	暴行または脅迫	暴行または脅迫	同意しない意思を形成、表明、まっとうすることが困難な状態にさせる
性 行 為	姦淫	性交、 肛門性交または 口腔性交	性交、肛門性交、口腔性交、膣もしくは肛門に身体の一部もしくは物を挿入する行為でわいせつなもの
被 害 者	女性	男性器の挿入が前提	男性器以外の挿入も対象に 性別を問わない

東京新聞 (2023.6.17) 参照。一部加筆修正

yes means yes) アプローチが導入されているが、東欧諸国のほとんどの国とフランス、イタリアを含むEU11 各国では、暴力や威嚇的な状況に対する抵抗が依然としてレイプの重要な要素とみなされている。女性に対する暴力やDVを犯罪とする初の指令（ディレクティブ）が賛成多数で可決された2024年4月の欧州議会でも、同意モデルによるレイプの定義を盛り込むことには強い反対があり、「同意のない性行為が犯罪であることの啓発を強める」との妥協案で決着をみたという。

最重要視される「無^む辜^こを罰せず」原則

さらに、野坂祐子（大阪大学）と吉田博美（駒澤大学）が、教育や臨床場面の現状と課題についてコメントしたのち、参加者全員で感想や意見を共有した。性暴力被害者が示す迎合的なトラウマ反応などが理解されにくいこと、目に見えない心の内面が扱われないなどの問題点を指摘する声があがった。

笠原氏は、社会の期待やとりわけ被害者側のニーズに十分応えられていないという法律の限界を示し、刑法は国家権力による人権侵害にもなりかねないため、確実ではなければ罰してはならないという「無^む辜^こを罰せず」の観点が最重視されてきた点について言及した。ただし、法律は社会の認識、価値観、経験則等が成熟して形づくられていくものであるとともに、国際的な動向や情報等が法律を定めて社会を変えていくパターンもあり、今回の座談会のように、対話を通して社会変革の〈種〉をまいていくことの重要性を強調した。

自己決定権と性的コミュニケーション

笠原氏が、人権の観点から性的同意について考える必要性から自己決定論や身体的権利を強調したのに続き、東も社会における自己決定権や「同意」概念の危うさに言及した。My Body, My Choice（私のからだは私のもの。自分のことは自分で決める）といったフェミニズムの有名なスローガンに始まり、今日、自己決定の重要性についてFree, Full, and Informed Consent（自由な環境、十分な情報が保障された上での同意）が重要とされている。しかし、例えば「性同一性障害特例法」によるしほりが存在する状況では、トランスジェンダーが「自由」に「十分な選択肢」が提示された状況で「自己決定」する権利は保障されているとは



言い難い。性的な場面についても、どこまで自己決定が保障されたと言えるのか、それを法律に落とし込むことの難さについても問題提起された。

性に関するコミュニケーションをめぐる言説は、「男は狼」と歌われていた時代から、「嫌ならはっきりNOと言おう」というメッセージへ、さらに“*Yes is Yes*” “*Yes means Yes*” という〈YESアプローチ〉の動きに変わりつつあり、性犯罪の判決状況にも変化がみられている。アプローチの変化によって有罪と認められたものもある一方、「原告の非自発的参加の兆候が曖昧すぎる」「自発的な自己決定をしていなかったとは言えなかった」という判断から無罪判決になるものもあり、「無辜を罰せず」の原則と同様に、依然多くの問題をかかえている現状が指摘された。

今後に向けて

MeToo 運動によって沈黙を強いられてきた人がようやく声を上げることができるようになり、YESアプローチへと進展してきた。法改正や性教育は、教育的メッセージとしての重要性が大きい。法的原則に落とし込むにはまだ多くの課題がある。笠原氏が述べたように、法律が先に変わるか、社会の共通認識がコンセンサスとなって法律が変わるか、その相互作用を活性化していくために対話方式の研修は意義があったのではないかな。

今回の参加者は、教員、養護教諭、保育士、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、児童養護施設職員、児童精神科等の医療従事者、性教育や性の支援等に関する実務家や活動家、研究者、学生等、幅広い現場や専門性を有しており、〈性的同意〉への関心の高さが感じられた。弁護士と身近に話す経験が初めてという声も多く、「日常の業務で感じる疑問や困難を話せてよかった」といった感想に加え、より専門的な情報や説明を求める意見もあり、今後の企画に反映させていきたい。

めぐみ を 生きる

負けない、めげない、あきらめない

【第13回】パートナーシップ制度を巡って

この4月から読み始めてくださった方、初めまして。私は、千葉県の公立中学校で教員をしています。昨年度1年間、この連載を担当し、私のライフストーリーやカミングアウト、学校教育を変えるために取り組んできたことなどを書き連ねてきました。連載を継続するにあたり、昨年度の話の流れの中では取り上げられなかったことについて、毎回スポットを変えながら、お伝えしていきたいと思います。

私は教員として働く傍ら、市民団体「レインボー千葉の会」の事務局長として、会の様々な活動の企画・運営の中心を担っています。レインボー千葉の会は、千葉市におけるパートナーシップ制度の実現を目指して2016年に設立されました。

千葉市のパートナーシップ制度では、性的マイノリティだけではなく事実婚のカップルも含めることが、全国でも初めてできました。より多様なカップルのあり方を受け止め、誰にとっても生きやすい街づくりにつなげることができました。

今では、会の活動範囲を千葉県内全域に広げ、より多くの自治体でパートナーシップ制度、そしてファミリーシップ制度が導入されるよう働きかけをしています。制度の導入が実現できたら終わりではなく、その後のフォローアップに関わり続けることも大切です。制度の認知度を把握する項目を、市民意識調査に含めてもらい、周知活動の継続につなげたり、制度がとくに生きる住宅や医療福祉などの業界団体への説明に力を入れてもらったりしています。

パートナーシップ制度を巡っては、日本全体の人口カバー率が90%を超えるまでになっています(2025年3月1日現在、公益社団法人 Marriage For All Japan調べ)。そのようななかで、婚姻の平等訴訟に関する2025年3月25日の大阪高裁判決では「同性カップルについてのみ婚姻とは別の制度を設けることは、(中

Profile 永井 恵 (NAGAI Megumi)

トランスジェンダーとしての生き方をオープンにし、公立中学校の教員として生きる。多様な性のあり方やジェンダー平等の取組を、人権教育の視点から続けている。



略) 新たな差別を生み出す危惧」があり、「異性カップルと同性カップルの間に生じている不合理な差別を根本的に解消し得ない」と述べています。これは、パートナーシップ制度の広がりにかこつけた「別の制度があればよいではないか」という考え方を否定する明確なメッセージです。

しかし、パートナーシップ制度を広めてきた努力が無駄なのかといえば、そうではないはずです。同性カップルに難色を示していた大家さんの対応が、宣誓カードとともに自治体が行き組んでいることとして説明した途端に、180度変わったというケースも聞かれます。公的な存在である自治体が行き組むことで、様々なあり方のカップルに対する見方にポジティブな効果を与えたことは間違いありません。

また、パートナーシップのパートナーシップを広げていくことを要望していった結果、自治体間連携の動きが広がっています。パートナーとの関係は変わらないのに、引っ越しをする際に、なぜか一度パートナーシップ宣誓証明を返却し、引っ越し先で再度宣誓をする必要がなくなることは、民法上の婚姻の扱いに近く意味でも大切だと考えています。

私の出身地であり、性の多様性に関する施策推進会議の委員も務めている埼玉県では、この1月にすべての自治体で制度を利用できるようになりました。しかし、自治体によって利用できる行政サービスに差があることがわかっています。

千葉県内では県北西部に人口が集中しているため、既に人口カバー率は7割ほどに達しようとしています。それでも、いつでもどこにでもいる性的マイノリティが住む場所によって異なる対応がされないよう、引き続き未導入自治体へ働きかけ、そして導入自治体による行政サービスの差がなくなっていくよう働きかけを続けていきたいと考えています。

今回は、市民団体として活動を息長く続けていくために、考えたり取り組んだりしていることをお伝えしようと思います。

わたしたちの 性教育 アクション

同じ世代の価値観を共感・共有

昨年（2024年）12月1日の世界エイズデーをふまえて、若者に増えている性感染症の予防と若者から発信する少子化対策（キャリア・ファミリープランニング）を栃木県・宇都宮駅東口交流広場「宮みらいライトヒル」で開催しました。日曜の午後ということもあり、若者世代に限らず多くの人に興味を持って参加してくれました。

実施目的は、①最近の若者の性感染症の動向や情報を知ることで、自身とパートナーを守る。また、予防法の実践を学ぶことで、性感染症が身近なものであることを理解する。②キャリアを積んで自分の夢を実現するとともに、愛する人と幸せな家庭を築くために妊娠・出産の適時期と高齢出産についてのメリット・デメリット等の情報を知り、キャリアメイクと妊娠・出産に焦点を当てた自分の理想とする輝いた未来のプランを考える、です。

内容は、①予防啓発資料街頭配布（性感染症ミニブックとピア活動紹介およびNPO法人チラシ）、②ユース世代に性感染症が増えている状況に着目し、性感染症とその予防についてのミニピアエデュケーション（仲間教育）、③キャリアメイクと妊娠・出産に焦点を当てた自分の理想とする未来のプランづくりピアカウンセリング講座、④参加者に自分にとっての大切な人やものをハートの用紙に書いてもらい、レッドリボンと一緒にクリスマスツリーをディスプレイ、などを行いました。

同じ世代の価値観を共感・共有する若者（ピアっ子）が、参加した若者に寄り添い、真剣に語ることで、若者たちが最後まで一生懸命聞いている姿が印象的でした。最後は笑顔になっていることも素敵でした。

子育て世代ピア支援事業

とちぎみらい with ピアでは、子育て世代を対象に

#25

大切なわたしとあなたの 未来のために

特定非営利活動法人 とちぎみらい with ピア



家族連れで大切な人へのメッセージを



「そうなんだ、妊娠や出産には適齢期があるんだ！」

した支援事業も行っています。主な事業は、①リフレッシュママクラス®・ママおよびパパピアカフェ等の子育て当事者支援、②子育て世代支援者公開研修会、③ママ・パパ通信および教材作成などです。

（文責・葭葉敬江、福田 環）

特定非営利活動法人 とちぎみらい with ピア
理事長 高村壽子

ピアサポートによるエンパワメント向上に関する事業を行い、人生の夢を実現しながら生き生きと健やかに暮らせる未来、社会づくりに寄与することを目的に支援活動を行っている。

<https://www.tochigimiraiwithpeer.jp/>

メール：mirai.withpeer@gmail.com

二度目の100日

米国の議会には、新政権に対し「最初の100日」という猶予期間があることがしばしば指摘される。政権が交代し、新たな大統領が誕生すれば「まずはお手並み拝見」ということで就任後100日間は表立った批判をなるべく控え、推移を見守るのだという。

1月20日に就任したドナルド・トランプ大統領の場合は2017年から4年間、政権の座にあり、4年のブランクを経て再び咲いたので、「二度目の100日」ではあっても「最初の100日」とは言えない。

トランプ氏はその2期目の就任初日から大統領令を連発し、セクシュアリティをめぐる暴投の発言もあってエイズ対策の現場は大混乱だった。とくに対外支援見直しに関する大統領令の影響は大きい。「アメリカ・ファースト」という大統領の方針に沿った支援かどうかを精査するため、すでに実施中の資金拠出も90日間の即時凍結とされたからだ。

米国の超党派の看板政策として2003年の創設以来、世界のHIV陽性者の治療支援に大きく貢献してきた米大統領エイズ救済緊急計画（PEPFAR）も当初は凍結の対象になっていた。

国連合同エイズ計画（UNAIDS）によると、PEPFARのプログラムはアフリカを中心に55か国で実施され、2000万人を超えるHIV陽性者がいまも抗レトロウイルス薬による治療支援を受けている。その2000万人たちは支援の凍結により生存に不可欠な治療薬が入手できなくなる。

米国務省がその後、緊急的人道措置として食糧支援などとともPEPFARによる支援も凍結対象から外すことを発表した。ただし、治療の継続や治療開始に必要な検査、性と生殖に関する健康の権利に取り組む組織の維持などに必要とされる関連支援は、凍結対象のままとする。

UNAIDSは公式サイトの特設ページ Impact of US cut on global HIV response(米国による資金削減が世界のHIV対策に与える影響)でPEPFARをめぐるトランプ政権の対応や各国からの報告を定期的に紹介し

ている。日本語ではAPI-Net（エイズ予防情報ネット）が、2月5日までの主要な動きを Impact of recent U.S. shifts on the global HIV response（米国による最近の政策変更が世界のHIV対策に与える影響）として仮訳版で紹介。以後の更新は英文のままだが、UNAIDSの公式サイトで確認できる（欄外アドレス①参照）。

一方、エイズ分野における世界最大の専門家組織である国際エイズ学会（IAS）は2月6日付で2025年の年次書簡『Why HIV could be poised for a monumental comeback（HIVの再拡大を許していいのでしょうか）』を発表している。こちらは公益財団法人エイズ予防財団とエイズ分野の3つのNPO法人が運営する情報サイト「コミュニティアクション」が要旨の日本語仮訳を掲載しているので参考にしてほしい（欄外アドレス②参照）。

IASの年次書簡は例年より短めで、発表時期も少し早いように思える。個人的な感想で恐縮だが、米国の新政権が生み出した混乱に対する懸念と切迫感が強く反映されているからではないかと思う。

《科学と人権を軽視することが成果を後退させ、次のパンデミックを招くリスクになっています。しかし、その逆の道を選べば、HIVパンデミックを永久に終結に導くことが可能になります。青写真もあります》

その青写真の核としては次の4点を強調している。

- 人権をまもる
- 縮小しつつある市民社会の空間を確保する
- 公衆衛生を非政治化する
- 国際協力を強化する

公衆衛生は本来、各国の政策とも深くかかわるものだけに、専門家集団による非政治化の指摘は切ない。国連機関であるUNAIDSは極力、米国批判のトーンを抑え、一方のIASは現場の危機感を強く反映し、ガチンコの対決姿勢で臨もうとしているのではないかな。それぞれの組織の立場を踏まえたうえで、国際的な役割分担によって何とかエイズ対策の後退を回避し、4年間のサバイバルをはかっているようにも見える。

BOOK GUIDE

今月のブックガイド

性差を問い直す

臨床心理士として幼稚園・保育園に通う性別違和のある子どもと接していると、「男の子の遊び」、「女の子の色」、「男の子の持ち物」など、小さな子どもたちの心身ががんじがらめにさせるジェンダー環境の強さを実感する。「多様性の時代」と言われて久しい昨今、そもそも子どもに性差があるのか否か考えることができる、ぴったりの一冊を紹介したい。

本書は、発達心理学者が心理学や認知科学のさまざまな研究から言葉や攻撃性、感情、好みなど、子どもの心理学的な性差について一般向けに論じた新書である。筆者である森口佑介氏（京都大学大学院文学研究科准教授）は、ジェンダーステレオタイプをもつ周囲の大人たちが男児と女児とで関わり方を変え、その結果としてほんの少しの性差が見られるようになり、そのほんの少しの性差が、さらに周囲のジェンダーステレオタイプによって増幅され、ひいては子どもの進路や職業選択にまで影響を及ぼす……といった可能性について、これまでのさまざまな先行研究を通して論じている。なかでも大人たちの「無自覚性」に注意喚起を促す。そう、大人たちは意識して「女の子だから」「男の子だから」と扱いを変えているわけではない。あるいは、良かれと思ってジェンダー別の対応をするということもあるかもしれない。自覚は無いのか、敢えて行うか、いずれにせよ「自重すべきこと」として意識化されているわけではない。

就学時前の性別違和の子どもに好きな色を聞くと、性別違和のある男児は判で押したようにピンクや薄い水色など「女児的」とされる色を答える。ところが、あれだけこだわっていたピンクにだんだんと執着しなくなってくる。この傾向は性別違和のない女児でも同様の傾向がある。いったい何がこの子たちをそうさせるの



つくれる子どもの性差 「女脳」「男脳」は存在しない

森口佑介著
発行 光文社
定価 946 円（税込）

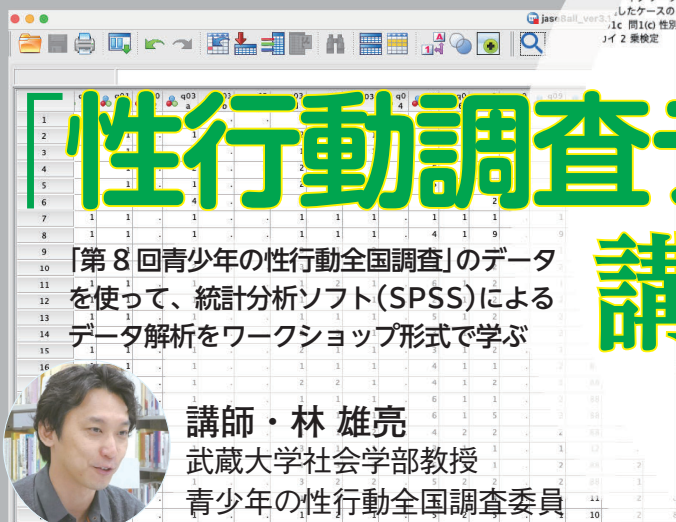
か、とても不思議な現象だ。本書では色の好みが文化で異なるとした研究が紹介されている。ペルーのアマゾン地域、バヌアツ共和国のタンナ島の高地の村、コンゴ共和国の狩猟採集の生活様式の子どもたちではピンクを選ぶ傾向に性差はなく、こうした性差は都市部の子どもたちだけに見られる現象であるという。

6章「学力の性差」を読んですぐに「漢字ドリル」を画像検索、その後、「計算ドリル」を画像検索した。私のパソコンの液晶画面には、筆者の言うとおり、漢字ドリルでは赤系の表紙が、計算ドリルでは青系の表紙が多くを占めた。「女の子はピンク、男の子は青色」という思い込みがあり、間接的にですが『国語＝赤色＝女の子』『算数＝青色＝男の子』という暗黙のメッセージをドリルの色を通じて伝えてしまっている可能性もあります。このような暗黙のメッセージはあちこちで見られます。色から学ぶジェンダー行動。子どもたちは無意識的にジェンダーを学び吸収していく。

8章で紹介された筆者たちの研究は実に考えさせられる。4歳から7歳の子どもを対象に、職場に「ものすごく賢い人」がいるという話を聞かせ、その人が女性であるか男性であるかを表示された画像から選んでもらうと、4歳～6歳では男児も女児も自分の性別を賢いと判断したのに対し、7歳になると男児も女児も男児を選ぶようになったという。勉強の始まる小学校に上がると「男性＝賢い」というジェンダーステレオタイプが形成されるようになったのだ。ちなみに実際の学力にはほとんど性差がないか、むしろ女児のほうがやや良いというメタ分析の結果が本書では示されている。

そもそも性差があるのかどうか、あるとすればどの程度なのか、その要因は何なのかといったことに関心のある人たちに、先行研究がしっかり明記された本書の通読をお薦めしたい。男性脳・女性脳といった男女を二分化した言説についても、なぜ間違っているか説明してくれている。（明治大学准教授 佐々木掌子）

JASE THE JAPANESE ASSOCIATION FOR SEX EDUCATION 日本性教育協会



「性行動調査データ分析」

「第8回青少年の性行動全国調査」のデータ
を使って、統計分析ソフト(SPSS)による
データ解析をワークショップ形式で学ぶ



講師・林 雄亮
武蔵大学社会学部教授
青少年の性行動全国調査委員

講座《入門編》

q01c 問1(c) 性別		と q12a 問12(a) データをした経験があるか		と school のクロス集		合計
		q12a 問12(a) データをした経験があるか				
		1 ある	2 ない	9 無回答		
1 男性	度数	619	1605	66	2290	
	q01c 問1(c) 性別 の %	27.0%	70.1%	2.9%	100.0%	
	度数	627	1453	70	2150	
2 女性	度数	29.2%	67.6%	3.3%	100.0%	
	q01c 問1(c) 性別 の %	3	2	0	5	
	度数	60.0%	40.0%	0.0%	100.0%	
3 その他	度数	50.1%	7.5%	1.1%	444	
	q01c 問1(c) 性別 の %	1251	61	1	1313	
	度数	1153	61	1	1215	
9 無回答	度数	54.2%	2	2	100.0%	
	q01c 問1(c) 性別 の %	127	38	2	167	
	度数	83.3%	16.7%	0.0%	100.0%	
合計	度数	2951	1191	52	4194	
	q01c 問1(c) 性別 の %	70.4%	28.4%	1.2%	100.0%	
	度数	3048	3008	137	6193	
1 男性	度数	49.2%	48.6%	2.2%	100.0%	
	q01c 問1(c) 性別 の %	3567	3001	138	6706	
	度数	53.2%	44.8%	2.1%	100.0%	
2 女性	度数	14	7	1	22	
	q01c 問1(c) 性別 の %	63.6%	31.8%	4.5%	100.0%	
	度数	2	1	1	4	
3 その他	度数	50.0%	25.0%	25.0%	100.0%	
	q01c 問1(c) 性別 の %	6631	6017	277	12927	
	度数	51.3%	46.6%	2.1%	100.0%	

から

日時：5月31日(土)13:00～17:00(受付12:30～)

会場：東京・武蔵大学江古田キャンパス (東京都練馬区豊玉上1-26-1)

日本性教育協会では、1974年からほぼ6年おきに、全国の中学・高校・大学生を対象にした「青少年の性行動全国調査」を実施し、膨大な調査結果を分析したレポート『「若者の性」白書』を出版しています。この調査結果は、教科書、教育書、研究資料、マスメディア等に広く活用され、現代の若者の性意識・性行動のあり方や、その変容を知ることができる貴重な調査研究であると評価されています。

本講座は、「青少年の性行動全国調査」に関心をお持ちの方などに、性行動全国調査委員会が行っている分析手法の概要を紹介する初級セミナーです。2017年に実施された「第8回青少年の性行動全国調査」のデータを使って、テーマに沿ったデータ分析の方法を解説し、統計分析ソフト(SPSS)を使って実際にデータ解析をワークショップ形式で学ぶ講座となっています。(PC 持参不要)

【タイムテーブル】

第1部 レクチャー編 (13:00～14:30)

1. 「青少年の性行動全国調査」データの説明
2. 統計分析の基本的な考え方
3. SPSS の基本的な利用法
4. どうすれば知りたいことを分析できるか

(休憩 15分)

第2部 トレーニング編 (14:45～17:00)

1. 回答を適切に集計する
2. 複数の情報を組み合わせて考える
3. 参加者の関心に基づく分析事例
4. 質疑応答

主 催：日本性教育協会 (JASE) <https://www.jase.faje.or.jp>

対象者：性行動・性教育の研究者 (大学院生含む)、「青少年の性行動全国調査」に関心をお持ちの方

※なお、基礎的な PC スキルが必要です

受講料：6000 円

定 員：20 名 (先着順)

申込み先：<https://jase-seminar20250531.peatix.com/>

申込み締切：2025 年 5 月 28 日 (水) 23:55 (定員になり次第受付終了)

問合せ先：info_jase@faje.or.jp (JASE セミナー係まで)

申込みはここから



1 次案内

第 53 回全国性的教育研究大会 (札幌 2025)

基本テーマ

「自分らしく生きる未来を拓く性教育

～性の現代的な課題への対応を踏まえた指導の在り方～

これからの社会を築いていく子どもたちには、性教育を通して多様性を認識し、自己肯定感を高め、他者と連携しながら自分らしく希望に満ちた未来を歩むことを願っています。

現在、若者を取り巻く環境が大きく変化し、性に関わる様々な課題も顕在化している中で、豊かな人間性と未来社会をたくましく生きる力を全ての子どもたちに育むことができるよう、大会を通して学びを深めていきたいと考えています。ともに一緒に学んでいきましょう！



2025 年 7 月 26 日 (土)

27 日 (日)

ホテルライフオーツ札幌

札幌市中央区南 10 条西 1 丁目

1 日目 9:20～16:20 (予定)

○講演

○分科会Ⅰ (発達段階別)

- ・幼児期
- ・小学校
- ・中学校
- ・高等学校
- ・特別支援教育

2 日目 9:30～12:00 (予定)

○分科会Ⅱ (課題別)

- ・性別違和
- ・性被害、性暴力
- ・性に関する個別指導

○外部講師のためのスキルアップ

主催：全国的教育研究団体連絡協議会

共催：北海道性教育研究会

札幌市性教育研究会

協賛：日本教育協会

問合せ先

○北海道性教育研究会 事務局

011-521-2341

(札幌市立柏中学校 内)

○全国的性教育研究団体連絡協議会

事務局 (東京)

zenseiren@galaxy.ocn.ne.jp

第14回日本「性ところ」関連問題学会学術研究大会

生物学とジェンダー学の対話

生物学 vs ジェンダー学 から 生物学 and ジェンダー学へ

大会長 麻生 一枝(成蹊大学)

会場 ホテルメトロポリタン(東京・池袋)

開催日 2025年6月7日(土)



大会長講演 9:00~9:55 座長:東邦大学 伊藤 桂子

「いち生物学者からジェンダー学への素朴な疑問 一外にいるからこそ見えてくるもの」
成蹊大学 麻生 一枝

現代のトピックス 10:00~10:55 座長:当学会理事 刀根 洋子

「生殖技術とジェンダー」 金沢大学 日比野 由利

教育講演 11:00~12:00 座長:横浜市立大学 松下 年子

「フーコー『性の歴史』を読む」 金沢大学 仲正 昌樹

メインシンポジウム 13:30~15:40 座長:西川口榎本クリニック 齊藤 章佳 東邦大学 齋藤 益子

「科学的データとジェンダー」
明治大学 高峰 修 埼玉大学 田代 美江子 群馬大学 高井 ゆと里 横浜国立大学 佐々木 成江

基調講演 15:50~16:50 座長:当学会理事 安田 美彌子

「ジェンダー学の今」 明治学院大学 加藤 秀一

公開講座(参加費無料) 17:00~18:00 座長:成蹊大学 麻生 一枝

「生命誌から見たジェンダー」 JT生命誌研究館 中村 桂子

一般演題

一般演題発表者募集中

発表要旨を2025年4月30日(水)までに下記大会事務局までお送りください。

懇親会 18:10~ プログラム終了後、懇親会(情報交換会)を行います。

- 大会に参加の事前申込みはホームページからお申込ください。〈事前参加登録締切:2025年5月10日(土)〉
- 参加費:会員 事前 2,000円 一般 事前 3,000円 学生 事前 1,000円 懇親会費 2,000円
当日 3,000円 当日 4,000円 当日 2,000円 学会入会 入会金:1,000円 年会費:5,000円

学会ホームページ <http://www.jasm.or.jp>

大会ホームページ | 事前申込/一般演題登録はこちら▶

日本「性ところ」関連問題学会 [理事長] 榎本 稔(榎本クリニック) [実行委員長] 齊藤 章佳(西川口榎本クリニック)

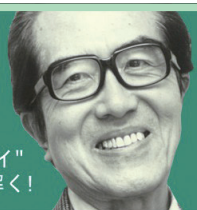
お問い合わせ 学会事務局 TEL.03-3982-5345

T:03-3982-6089 F:03-3982-6089 E-mail:sei-kokoro1@enmoto-clinic.jp



「朝山新一の性科学と性教育」 JASE e-booklet 無料公開中

"日本のキンゼイ"の功績をひも解く!



JASE e-booklet『朝山新一の性科学と性教育』は無料公開中!

<https://jase.faje.or.jp/book/asayama/>

「日本のキンゼイ」と呼ばれた性科学者・朝山新一（元・大阪市立大学名誉教授、1908～1978年）。1974年から始まった「青少年の性行動全国調査」の礎を築いた、日本の性教育・性科学の発展を牽引した第一人者です。博士の功績をまとめた論文集が、電子ブックレットとして刊行され、日本性教育協会のウェブサイト上で公開されました。「第1回青少年の性行動全国調査」（1974年）以前の調査票資料や、性教育授業の教材として作成されたスライドなどの図版も多数掲載されていて、性科学、性教育に関心のある方に必見の書です。

【主な内容】

- 第1章 世界のセクソロジーにおける朝山新一の位置（東優子 大阪公立大学教授）
- 第2章 朝山新一の性行動調査（片瀬一男 東北学院大学名誉教授）
- 第3章 朝山新一の性教育スライドに込めたる思い（宇野賀津子 公益財団法人ルイ・パストゥール医学研究センター主席研究員）

資料解説 1974年「第1回青少年の性行動全国調査」調査票の構想と作成（片瀬一男）

コラム ①『性の署名』にまつわるエピソード（東優子）②朝山新一による成人期の性行動調査（片瀬一男）③性の決定をめぐる、ジョン・マネーと朝山新一の関係（宇野賀津子）④可視化された性とからだ—科学的性教育とははじめ（池上千寿子 特定非営利活動法人ぶれいす東京顧問・理事）



第3章「朝山新一の性教育スライドに込めたる思い」より。PC、スマホ両方に対応している。



好評発売中!

ピアカウンセリング実践ガイドブック

日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会／高村壽子 編著

主な内容

- 第1章 なぜ、ピアカウンセリングなのか—主体的な生き方を支える健康教育の一方法
- 第2章 主体的な生き方を支えるピアカウンセラーの養成
 - 2-1 ピアカウンセラーになるために
 - 2-2 カリキュラム展開の実例 I
 - 2-3 カリキュラム展開の実例 II—セクシュアリティについて
- 第3章 主体的な生き方を支えるピアカウンセリング活動実践紹介—ピアカウンセリング手法による性=生の健康教育を中心に

中学校のピアエデュケーション（対面方式）、中学校のピアエデュケーション（遠隔方式）、高校のピアカウンセリング／ピアエデュケーション（ハイブリッド方式）、駅ナカ保健室（ピアカフェ）、教育支援センター（不登校適応指導教室）におけるピア活動、特別支援学校ピアエデュケーション、リフレッシュマクラス®、グループピアカウンセリング講座
- 第4章 コロナ禍におけるピアカウンセリング養成講座の評価
- 第5章 ピアカウンセリング活動を支えるしくみ／システム

◆B5判：160頁 頒価3000円（税込）

※送料等は、ホームページを参照してください。

◆JASE ホームページ <https://www.jase.faje.or.jp/pub/pub.html> からお申し込みいただけます。
または、Email info_jase@faje.or.jp
TEL 03-5801-6788 FAX 03-5801-6677



すぐ授業に使える

性教育実践資料集 中学校改訂版

〈主な内容〉

- 第1章 中学校における性教育（性教育を実践するにあたって／性教育の目的と意義）
- 第2章 性教育の実践（性教育の現状と実践の課題／学習指導要領における性教育の取り扱い／性教育の指導体制／指導計画の作成／性教育実施上の留意点／家庭・地域との連携／中学校の性教育の今後に向けて）
- 第3章 指導事例（各学年における指導計画と指導の流れ／8つの1年生の指導事例／6つの2年生の指導事例／6つの3年生の指導事例／7つの個別指導事例／5つの組織の指導事例）
- 第4章 参考資料（性行動経験率／性的なことへの関心割合／自慰経験率／性的関心の経験割合の推移／性へのイメージ／性感染症報告数の推移／梅毒患者報告数の推移／HIV・エイズ感染者の動向／人工妊娠中絶実施率及び推移／用語解説）

すぐ授業に使える

性教育 実践資料集

中学校改訂版



一般財団法人 日本児童教育振興財団内
日本性教育協会 編

小学館

定価 2,200 円（税込） B5 判・224 ページ

編／一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会 発行／小学館

全国の書店にて、ご購入いただけます！

JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室

資料室について

JASE 資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約6万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

【閲覧予約】 事前に電話で予約が必要 [tel 03-5801-6788]。貸出業務は行っておりません。

【開室日・時間】 月曜日～金曜日 11:00～17:00

【休室日】 土曜日、日曜日、祝日、年末年始 ※この他、臨時に休室することがあります。

<https://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html>

資料室 利用方法

収集文献 ・資料

→ 資料検索



統計・調査報告書、ジェンダー・フェミニズム、性教育一般・性教育の歴史的資料、セクソロジー、民俗学・文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書・指導書・学習指導要領、国内学術誌、国際（海外団体資料・海外学術誌）、高齢者・家族問題、文学・評論・エッセイ・文庫・新書、官公庁資料、JASE 刊行物、映像資料、個人論文、雑誌記事、新聞記事、絵本・写真集、ダイヤモンド文庫、団体資料・手引き・白書（都道府県資料、大学関連資料、官公庁資料など）ほか。

https://opac.jp.net/Opac/search.htm?s=NS1JEYq24WsoCGy_N7GNQ_WQaeg